

活気あるまちづくりに役立てて

町観光協会が金持神社札所（売店）の収益金の一部を寄付



感謝状を手渡される小谷会長（右）



今後の活動にも力が入る町観光協会の皆さんと景山町長

2月26日、町観光協会（小谷澄男会長）が、平成27年度の日野町観光物産館金持神社札所（売店）の収益金の一部1050万円を町に寄付しました。

当日は、小谷会長ら協会役員や札所スタッフらが町役場を訪れ、札所で人気の高い縁起物「黄色いハンカチ」と「金持万札扇子」と共に景山町長に手渡しました。同神社は近年、テレビや新聞などで広く知られたこともあり、平日でも参拝者が絶えません。昨年は、例年を大きく上回る32万人が訪れました。小谷会長も「宝くじの発売直後が一番、参拝者が多い。これも全国から「力のある地域」として認知されてきたからでは。今後とも力を合わせ町を発信していきたい」と話しました。

また、平成18年度から始まった寄付も今年で10年目となり、総額は4620万円となりました。これまでの感謝の気持ちを込め、景山町長から町観光協会へ感謝状が手渡されました。

景山町長は「いただいた寄付は観光振興基金に積み立て、皆さんの思いを大切に、活気あるまちづくりに生かしていきたい」と感謝を述べました。

思い出の靴下がアート作品に

とりアート西部地区イベント（日野会場）開催



子どもたちも思い思いに臨床美術体験



思い入れのある靴下で満たされた空間を演出

県西部を中心に活躍中の個性豊かなアーティストたちの作品展示とワークショップを行う、「とりアート西部地区イベント 展示・ワークショップの部」が、3月4日から7日までの4日間、山村開発センターを会場に開かれました。

会場には、繊細ペン画家や絵本作家、伯耆みらい（障がい者就労学校施設）の皆さんによる絵画などが展示され、訪れた人の目を引き付けていました。そのほか、伯耆町のアイティストによる「かんなくず」を使ったコースター作り、脳の活性化や認知症の症状改善に効果があるといわれている臨床美術を体験できるコーナーなど、さまざまなワークショップも開かれました。

また、開発センターの2階では、happy unbirth day（happy unbirth day）の2人と出演者らが、町内から提供された靴下2496本（1248足）を使った、独創的なパフォーマンスを行いました。2人は、使い古した靴下から現れる質感、所有者の年齢・性別、デザインの好み、思い出など、さまざまなものを日常と重ねて見てもらおうと演出。暗闇の中に「靴下と日常」が重なって映し出される様子に来場者は静かに見入っていました。



日野郡のうまいもん、食べてごしない

山陰いいもの探県隊が日野郡の魅力を再発見



町自慢の料理に会話も弾む



オシドリの魅力を熱心に説明

地域と一体となった観光振興に取り組む「山陰いいもの探県隊」が、2月16日、舟場の古民家「沙々樹」に招かれ、日野郡3町が自慢の料理や菓子などを振る舞われました。

山陰いいもの探県隊は、JR西日本米子支社が、2017年春の豪華寝台列車「トワイライトエクスプレス 瑞風」の運行開始に向けて、鳥取、島根両県で現在45人の隊員を任命。隊員らは山陰各地をレポートして、ご当地グルメや自然、歴史・文化などをホームページなどで全国へ広く情報発信しています。

当日は、日野町からは、味処四季米のおにぎり、奥日野きのこのコンフィバーガーが提供され、探県隊メンバーらは笑顔を見せながら、

料理に舌鼓を打っていました。

ご当地グルメを味わった後は、3町の観光スポットを紹介。景山町長が、金持神社やオシドリ、明地の雲海をはじめ、日野町の豊かな自然や歴史・文化の魅力について熱心に説明しました。

その後、探県隊はオシドリ観察小屋へ移動。夕方になり日野川へ帰ってきた、たくさんのおしどりに出迎えられ、心を和ませていました。また、オシドリ資料館では、オシドリグループの森田順子さん（根雨）から、オシドリの生態やグループの活動内容の説明を受け、興味深く聴き入っていました。

探県隊にとって、日野町をはじめ、日野郡の魅力を再発見した一日となりました。

元アナウンサーの軽妙な話術に会場が沸く

黒坂コミュニティ講演会&元気づくりミニ集会 in 日野



藤澤さんの話に聴き入る参加者

2月21日、町公民館で、黒坂地区コミュニティ推進協議会（中原明会長）主催の「黒坂コミュニティ講演会&元気づくりミニ集会 in 日野」が開かれ、町内外から約50人が参加しました。

講演会では、「放送こぼれ話」と題し、元NHKアナウンサーの藤澤武さん（鳥取市在住）による講演が行われました。

藤澤さんは、千代の富士や曙、若貴フィーバーに代表される大相撲の全盛時代、江川、桑田などの名選手が高校野球で活躍していた時代に、スポーツアナウンサーとして実況を担当していた頃のさまざまなエピソードを紹介。特に、夏の甲子園の開会式で行われる選手入場の実況再現では、その臨場感あふれた、迫力あるアナウンスに参加者は聴き入っていました。

講演会終了後には、「とつとりの元気づくりミニ集会」が開かれました。とつとり県民活動活性化センターの椿コーディネーターから「トットリズム県民運動」や県と日本財団の共同プロジェクトについて説明が行われ、地域で連携して取り組むことなどについて意見交換が行われました。



大相撲関連グッズなども多数披露